

ふれあひ文化祭に思ふ

いちかは ひろし
市川 浩

わが栖む街衢、世帯數にして六百未滿と少なければ、運動會など住民參加の催しもなかりけるが、新任の女性自治會長始め役員諸氏の御努力實り、折から新型コロナウイルス蔓延の豫兆ある中、終了、歸宅後の手洗、含嗽を前提に、二月二十四日「第一回地區ふれあひ文化祭」の開催となれり。

場所は區役所隣接の市民館にて午前十時三十分より先づ展示發表の部として住人出品の繪畫、書道、寫眞、ガラスアート、手藝等の展覧始り、夫々隠れたる技能を競ふ。

午後二時三十分より開始の舞臺發表の部は同館大會議室の演壇に常置のグランドピアノを使い、家族合奏が四演目中に二あり、特に音樂學校在學にあらざる少年少女の熱演の水準高きに驚く。

最後にビンゴゲームを経て、「故郷」を全員で合唱して終る。入場者に配布の番組には高野辰之作詩の歌詞が歴史的假名遣にて印刷しあり、全く問題なかりきも、「表記の工夫」に遠慮せるにや、「免追ひし」の「ひ」に「い」の振假名悲し。

以上盛會裡にふれあひ文化祭終了し顧みるに、家庭内にて音樂を共有、練習、發表するは誠に意義ありと言ふべく、個々人の教養水準は堅實に維持せられあるを實感す。顧みるに昭和戦前は江戸時代の教育不普及、戦後は戦前の軍事教練主體の非文化的教育と前代の教育批判を聞き過せり。更に最近若者の學力不足を論ひ、徒らに教育の低下を言ひ立つる多きを憂ふ。

歴史的事實としても、江戸時代は藩校、私塾、寺子屋が盛んとなりて、明治初年には識字率世界に冠たり。戦前の教育もその遺風は多數のノーベル賞に輝く。今日教育の荒廢を歎く聲ありと雖も、津々浦々に活動する「學習塾」は「本物」を教ふるが故に、兒童の學力維持に絶大の効果を發揮す。

残る分野は幼時期の教育にて、例へば石井式漢字教育はこれを是とする幼稚園にて最初より漢字表記を教へて大いなる成果を上ぐるも、小學校が受容せざるが故に中途半端に終る憾みあり。この點スポーツ、藝能の分野にては已に幼児期よりの修練も確立せられつゝあり、今やこれら「天才少年少女」を忌避する小學校なし。斯くて「金メダル候補」に若年の選手多く出現す。

一方電腦技術發達して人工頭腦の發展目覺しく、圍碁の世界にても江戸時代より一貫して名人上手の研究し盡くせる定石とは全く異なるAI定石突如登場す。適應能力の高き若手棋士の導入、研究目覺ししく、前年度成績優秀の棋士を選びて行ふ杯圍碁トーナメントにも多數選ばれる。然るに準々決勝進出の八人は孰れもAI定石出現前の、「昔風」の修練を積みたる棋士なり。

幼児期の特殊才能教育を親の經濟力の反映として、教育の不公平を難する議論ありと雖も、所詮は生涯を掛けての努力と精進こそ肝要なんめれ。

私事ながら家内もピアノ獨奏並びにバイオリン伴奏に出演す。

(令和二年二月二十九日受附)